

令和6年度中国徳陽市とのオンライン交流の結果について

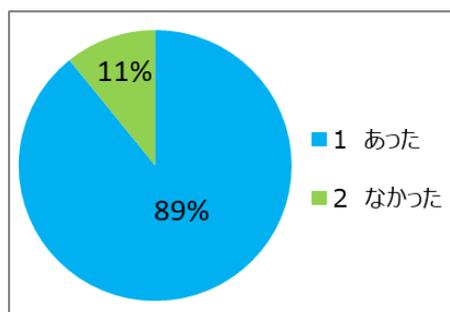
1 内容

両市の生徒同士で少人数のグループを組み、身近な内容をテーマに、英語を使って、オンラインで交流した。当日は、学校での生活（授業数や宿題などの内容の違い、部活動の有無）や、文化（アニメや食べ物など）についての話題が多くあった。

- ・本市：市内14校から38人参加（各学校2人～3人）
- ・徳陽市：徳陽第五中学校の生徒参加（参考：全校生徒数約3,000人）
- ・実施時間：15：30～16：00（日本時間）の30分程度
- ・使用したアプリ：テンセントのVooV Meeting（中国のWeb会議アプリ）

2 実施後のアンケート（抜粋）

【設問】英語を使ったオンライン教育交流に参加したことによって、英語でコミュニケーションを取ることに、気持ちの変化はありましたか。



（あった場合）どのような変化がありましたか。

- ・今回オンライン交流をして、する前から海外へ留学してみたいと思っていたが、その気持ちがより深まり、いろんな人と話してみたいと思った。もっと英語やいろんな語学を勉強したい。
- ・初対面の人と英語で話すことに抵抗があったが、実際やってみると思った以上に楽しく、これからも積極的に英語を使っていきたい。
- ・今回の交流でもっと英語を学んで、外国人ともコミュニケーションを上手にとりたいと思った。
- ・英語でコミュニケーションを取ることは苦手だったが、普段話すことがない他国の人と交流することができて、楽しかった。苦手だと思うことはあるけど、いろんなことが学べたから、コミュニケーションをたくさんとりたいと思った。
- ・表現することが難しい場合は、ジェスチャーをつけて、相手に分かりやすく伝えた方が良いという気持ちの変化があった。

3 結果

この交流を通じて、互いの学校の様子や文化等について、学習している英語を使って紹介することで、生徒たちの国際理解が深まるとともに、学習意欲の向上につなげることができた。